

第 69 回全国私立保育研究大会札幌大会企画（案）

- 1 大会名
第 69 回全国私立保育研究大会札幌大会
- 2 主催
公益社団法人全国私立保育連盟、一般社団法人札幌市私立保育連盟
- 3 後援（予定）
こども家庭庁
社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育協議会
社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育士会
社会福祉法人日本保育協会
札幌市 他
- 4 協賛
- 5 開催期日
令和 9 年 7 月 7 日（水）～9 日（金）
- 6 開催場所
(1) 全体会 札幌市民交流プラザ 4 階「札幌文化芸術劇場 hitaru」
(2) 分科会 未定
(3) 交流会 未定
- 7 参加対象者
保育施設役員及び職員、自治体保育関係者その他保育関係者等
- 8 大会参加者数（予定）
参加者数 2,300 人
- 9 大会参加費
未定
- 10 大会日程（別添案）のとおり

	7月7日（水）	7月8日（木）	7月9日（金）
	札幌文化芸術劇場hitaru	札幌市内ホテル等	札幌文化芸術劇場hitaru
8:00			
9:00	準備、最終確認	9:30 受付	9:00 開場 9:50 開会 札幌大会大会宣言・アピール文
10:00	(10:00～11:00 リハーサル)	10:00 分科会（午前）	10:00 記念講演（80分）
11:00	11:15 受付		11:20 講演終了 11:20 次期開催地PR 11:40 フィナーレ 大会旗引継ぎ
12:00	12:00 ウェルカムコンサート	12:00 昼食休憩	12:00 閉会式終了
13:00	13:00 休憩・楽器撤去・開会式準備 撤去・準備を同時進行、直後案内 13:20 開会式・表彰式	13:00 分科会（午後）	
14:00	14:25 行政説明（50分）		
15:00	15:15 基調報告（30分） 15:45 ゼンポ事業紹介		
16:00	16:05 休憩 16:20 特別講演（80分）	16:00 分科会終了	
17:00	17:40 一般参加者終了 17:45（表彰者記念撮影） 18:00 分科会事前打合せ	17:30 交流会開場 受付	
18:00	18:30 顧問参与会議	18:00 交流会開宴	
19:00		アトラクション	
20:00		次期開催地PR 20:30 交流会終了	

『みんなどまんなか』宣言!! ～ 未来をはぐくむ私たち ver.2.0 ～

熊本市大会よりバトンを引き継ぎ、2020 年開催予定だった前札幌大会は地球規模で起こった未曾有の新型コロナウイルスによる影響を受け、開会直前の参加者募集の最中に幻の大会となりました。

扉を開けば大会が始まるほどの準備を重ねてきたスタッフの落胆は、大会を思い出すことを躊躇するほどでした。あれから 7 年の月日が過ぎてようやく扉を開く時がやってきました。

前大会テーマ「未来をはぐくむ私たち」で伝えたかった「保育者のプライド」「仕事のやりがい・崇高さ」は奇しくもコロナ禍で「私たち」はエッセンシャルワーカーとの認識が社会に広まり、十分とは言えないまでも処遇の改善が図られてきました。そして今では、想定より速いスピードで進んだ少子化を食い止めるべく、令和 5 年度にこども家庭庁が発足し「こどもまんなか」社会の実現に向け国は異次元の政策を謳い、保育は量から質へと大きく舵を切っています。

こども家庭庁がまとめた「はじめの 100 か月の育ちビジョン」で大切なことと示されたウェルビーイングの向上には「こども」はもちろん「保護者・養育者」そして「私たち」を含む『みんな』が対象とされています。そしてその『みんな』の幸せが「こどもまんなか社会」の実現に繋がっていると記されています。

そのため今大会テーマは 『みんなどまんなか』宣言!! とし、『みんなどまんなか』を叶えるためには何が重要か、保育者の専門性を向上させるためには何を大切にしていくのかを「未来をはぐくむ私たち」が考えていく契機となる大会を目指します。

ver.2.0 となった札幌大会が『みんな』のウェルビーイングの向上に繋がりますよう、四季薫る札幌市のさわやかな初夏の時期に、旬の食材とともに皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

(案) 第69回全国私立保育研究大会(札幌大会) 分科会第I群について

第1分科会 保育の中で輝くために ～専門性を高め、子ども・保護者とつながる私たち～

●趣 旨

保育者個々の専門性・主体性を活かした保育により子どもは育っていきます。子どもの主体性を尊重した保育活動を通して、子ども・保護者・地域をつなぐ私たちの保育の質を高め、「すべての子どもをすべての大人で支えていく社会」の実現に向けての取り組みを考えていきましょう。

●討議の柱

- i) 子どもの成長から感じる喜び・やりがい～保育者個々の専門性を活かして～
- ii) 子どもの主体性を尊重した保育実践から振り返る～子どもの姿を共有し学びあう～
- iii) 子ども・保護者・地域をつなげる～子育ての中心となる園の関わり～

第2分科会 乳児保育 ～喜びの共有～

●趣 旨

乳児保育の基本 ～温かくて受容的で応答的な関わり～のなかでの「寝返り」「這い這い」「伝い歩き」乳児期の成長発達の一つ一つが私たちの喜びです。この喜びが子どもの喜びとなり、自尊感情や自己肯定感の育ちにつながります。子どもと私たちの嬉しい応答的な関わりは、子ども同士や保護者へと繋がっていきます。子どもの育ちを支える私たちの関わりを考えていきましょう。

●討議の柱

- i) 心の動きを受け止め応える関わり
- ii) 自尊感情や自己肯定感が育つ関わり
- iii) 主体的に遊ぶ環境を整える私たちの関わり

第3分科会 幼児教育 ～喜びの共有～

●趣 旨

子どもは遊びの中で自らの思いを伝えたり、豊かな環境や周りの働きかけによる様々な刺激を受け
る中で考えていく力を獲得していきます。また、ルールのある遊びや友だちと協同する生活や遊びを
通して自発的探究心・社会性・共感する心が育ちます。子どもの好奇心や探求心が育ち、試行錯誤し
ながらとことん遊びこめる環境、主体的になれる環境、そして友だちとつながる遊びを共に考えてい
きましょう。

●討議の柱

- i) 心の動きを受け止め応える関わり
- ii) 友だちとの豊かな遊びや社会性が育つ関わり
- iii) 主体的に遊ぶ環境を整える私たちの関わり

第4分科会 切れ目のない支援 ～仲間と共に育つ～

●趣 旨

気になる子どもの保育や支援、仲間と一緒に楽しく活動することを通して、大きくなるみんなの育
ちを大切にしてきました。「たのしい」の共有が仲間意識を育てます。乳児期から幼児期、学童期への
切れ目のない支援を考えていきましょう。

●討議の柱

- i) 相互理解で育つ仲間意識
- ii) 子どもの育ちを支える保育者・保護者の関わり
- iii) 切れ目のない支援 ～関係施設との連携～

第5分科会 身近な自然環境の中で五感を育む ～子ども・私たちの「気づき」～

●趣 旨

身近な自然の中での心動かす体験を通して、好奇心や探究心をもって、自然・生命の不思議さや尊さに気づきます。それは子どもの発見を共有し、共感し、楽しむことから始まります。子ども・保育者の発見から始まる保育活動を考えていきましょう。

●討議の柱

- i) 身近な自然に見出すふしぎの体験
- ii) 五感を育む自然遊び・自然体験
- iii) 変化に気づく私たちの役割

第6分科会 未来につなげる食文化 ～ともに食べる喜び～

●趣 旨

安全、安心な食育をすすめていくには、園の栄養士・調理員・保育士といった多業種の連携だけでなく、家庭との協力も欠かせません。保護者の中には離乳食の進め方がわからなかったり、お弁当を「負担」と感じている方もいます。「食育」は、園内だけではなく、保護者や家庭への働きかけが重要です。乳幼児期の食事の楽しさや大切さを家庭に伝えるために何ができるのか、考えていきましょう。

●討議の柱

- i) 子どもを取り巻く食生活の問題点
- ii) 食に関わる園での役割 ～家庭に寄り添って～
- iii) 未来につなげる食文化

第7分科会 保護者・養育者のウェルビーイング ～育ちの共有者～

●趣 旨

子どもの健やかな育ちを支えるうえで、保護者・養育者が心身ともに健やかであることは、子どもの発達や幸福感に大きな影響を与えます。そのためにも、保護者・養育者の多様な家庭背景を知ることが必要です。共に子どもの成長を支え、喜び合える関係性を築くため、育ちの共有者として、支援のあり方を考えていきましょう。

●討議の柱

- i) 保護者・養育者のウェルビーイング理解と保育者の役割
- ii) 保護者・養育者と共に支える子どもの育ち
- iii) 多様な家庭背景への理解と支援

第8分科会 豊かな遊びと直接体験 ～子どもの挑戦を応援する～

●趣 旨

乳幼児期の遊びは、学びであり、生きる力を育てます。遊びや学びの保育環境や地域社会の豊かな環境の中での様々な直接体験を通して、“子どものやってみたい学びの芽”に気づき、子どもの挑戦する気持ちを応援する関わりを考えていきましょう。

●討議の柱

- i) 子どもの「やってみたい！」の気持ちを育てる保育活動
- ii) 豊かな直接体験（遊び）から学びの芽を育てる保育活動
- iii) 考えたり、試したり、工夫したりする「思考力・判断力」を養う保育活動